修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務である。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

修学旅行の実態調査

三地区修旅連絡協

学年会で計画70%

見学地 63%が10か所以内

修学旅行で生徒たちが見聞をひろめ、楽しくゆたかな集団行動ができるようにと関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連絡協議会が全修協調査研究部の協力で行った実態調査の結果がまとまった。この調査は三地区所属の中学校から昨年度の修学旅行実施校一〇%を抽出、学校の事前、現地および事後指導のほか公費補助や引率教師の旅費などについても調査したが、修学旅行における教師の指導、生徒の自主性育成、安全性確保の全貌がわかり、今後の三地区修旅連絡協運動に貴重な資料を提供した。調査は関東一一一校、東海七三校、近畿九五校を抽出したが、回答率は関東一〇九校（九六・三%）東海六八校（九三・二%）近畿八十九校（九三・七%）の八九校であった。＝次号に「事後指導」など掲載。

事前指導　主に集団訓練

①「旅行計画はどのようにしてたてたか」では計画を「学年会」が七〇%、「教師と生徒の委員会」が二〇%、「職員会議」が一〇%、「旅行業者の意見」が六%、「PTAの希望」が一%であった。

②「本格的な指導と準備開始はいつ頃か」では「三年生になってから」が四四%、「二年の後半になってから」三四%、「一年の時から」と「二年になってから」が一〇%台。半数近く占める「三年生になってから」も出発期日が切迫している関係から実際には二年生の後半から準備しているものと思われる。

③「修学旅行を主題とした事前学習（指導）の場と時間数」では教科別にみるとホーム・ルームなどが最高で九二%、つづいて道徳が七〇%、社会が六四%、あとは一段と低くなって国語二一%、美術一八%の順。その時間の平均は六時間半。

「特設時間で事前学習を行っているか」では全部が「している」と答え、その時間は一時間で七二校、三時間が五九校、四時間が五七校、六時間は三一校、五時間二四校、一時間二一校、七時間以上は五校であった。

特設時間の指導内容の第一位は「集団訓練」で四九%、つづいて「健康管理」二〇%、「学習指導」一四%、「出発前の調査」一二%、「携帯品の検査」はわずか四%にすぎなかった。

また「どのような方法で学習のテーマを与えたか」では「学級または全員に」が四八%、「グループごとに」が四三%、「個人ごとに」七%となっている。

④「しおりは学校で作成するものと市販のものを併用する場合、しおりを別に学校で作ったか」では「作成した」が八六%、「作成しない」が一四%で、作成が圧倒的に多い。「学校で作成したものは誰か」は「教師と生徒が作った」が五一%、「おもに教師が作った」は三六%、「おもに生徒が作った」は一三%で、教師と生徒だけ」はわずか六%にすぎなかった。「旅行企画に参考としたのは何か」では「前年度の反省」が圧倒的に多く七〇%、「生徒の希望」が二〇%、「旅行業者の意見」は六%、「PTAの希望」は一%であった。

②「本格的な指導と準備開始は

教師が不寝番　現地指導

①「現地の見学のしかた」のうち「見学個所の数は」では「一〇か所以内」が六三%「一一か所—一五か所」が三六%「一六か所—二〇か所」一%「二一か所以上」が〇・三%で、生徒の疲労度からみても「一〇か所以内」が適当な一線であろう。

「特定地域内での自由見学（オリエンテーリング）を、実施したか」で「取り入れない」が八七%「一取り入れた」が一三%。これは引率教師数の関係で生徒の管理上困難が伴なうのが原因のようだ。

②「現地の行動や学習に班編成を活用したか」は「おもに活用した」が七四%、「ときどき活用した」は二五%。これは前項に関係があり、「自由見学は、取り入れぬ」でもこのグループ活動がそれを代行したものとみられる。

「宿舎で当日の見学の反省と翌日の見学についての話し合いは」は「班別で」が六一%、「全体で」が一六%、「学級別で」と「時間的に困難」がそれぞれ一一%あった。

また「見学の場合の説明」では「バスのガイドにまかせた」が九四%「教師も説明した」六%。後者はわずか六%にすぎなかったが学校側の意欲的な態度がみられた。

③「宿舎における生徒管理」のうち避難訓練について「実施しない」が四四%、「班長などによる非常口の確認」は三七%、「実施した」一八%で、全員による避難訓練は実際に行われていない。さらに「実施した」では「実施しない」はわずか四%。また、「実施したのは何か」の項目では「医師による全生徒の検診」が六六%、「疾病者の継続的観察」二三%、「一定期間継続して体温測定」と「同じく体重測定」がそれぞれ一%となっている。

⑥「旅行の際、生徒の携帯品、こづかい、服装などの規制」では「厳重に規制」が七五%、「基準を示す」二五%、「自由」は皆無で各学校とも携帯品について注意を払っていることがわかった。

携帯禁止品の内訳はカメラ（八〇%）ラジオ、時計、双眼鏡などがおもなもの。

服装は一校を除いて全部制服としている。

事前指導について学校では①現地のスライドや映画があれば効果的②事前指導に時間をかけることはむつかしい③教師の一方的指導は効果が薄い④集団訓練の徹底を痛感した⑤父母の協力が必要などの意見をのべている。

⑤「旅行前に健康診断を実施したか」では「実施した」が九六%の協力が目立つ。

解説

三地区修旅委連絡協でおこなった実態調査から修学旅行への動向を考えてみたい。

事前指導の場合

①「旅行計画はどのようにしてたてたか」については、学年会が断然多く、わずかではあるが教師と生徒の委員会がこれに続いている。したがって計画は学校主導型である。生徒が意欲をもって参加し、自分から学ぶという今日的傾向が徐々に表われつつあることが看取できる。これと同じ傾向は「旅行企画に参考にしたものは」についてもいえる。

②「本格的な指導や準備の開始」については、修学旅行の実施時期が三年の春か秋かによって開始時期のずれがあると思うが、実施学年で本格的に開始するのは当然であり、相当数の学校が一、二年から開始している。ことは修学旅行を学校として全教育活動の中に取入れて、長期間の計画的指導による教育効果の向上を期している面がうかがえる。授業時数確保の学校の実情から指導や準備の時期が二年後半から三年になってからが多いのはやむを得ないのではないか。

③「修学旅行を主題とした事前学習の場と時間数」は学級活動、道徳が多く、順次関連教科に及んでいるのは自然であろう。修学旅行が単なる観光旅行でなく、教室の延長であり、体験学習として味あわせる学校の意図がはっきりしている。しかし回答の中には指導時数ゼロの学校があったことは解釈に苦しむ。平均六〜七時間の時数は妥当ではないか。特設の場を設定しての指導面をみると、旅行に際し統制のとれた集団行動を必要とする点からこの時間の設定は当然であるが、前述のように学校として授業時数の確保上なかなかこの時間を設定することは困難な事情があると思う。平均三〜四時間の特設は妥当と考える。指導内容においても楽しく豊かな集団行動を行なうためには、集団訓練、健康指導に比重がかかるのは大集団の行動にはかかせないのではないか。

また、テーマを与えての学習形態に「グループ学習」が多いのは旅行に対する生徒の意欲づけに指導教師の配慮がうかがえる。これによって生徒が積極的に取組み、ひいては自主性の育成に役立つであろう。

④「しおり」も教師と生徒で作成するのが多いことは前述のグループ学習と同じく指導者のねらいが看取できる。

⑤「現地における生徒の健康管理」は、楽しい集団行動の上から学校として最も頭をいためるところであろう。事前における徹底した健康指導の重要性もここにある。ほとんどの学校が医師による検診、疾病者の継続的観察を実施しているのはうなづける。

⑥携帯品、服装については各学校とも例外なく強い規制をしているのは義務教育段階の中学生の集団行動上やむを得ないものと思う。

現地指導の場合

①「現地の見学のしかた」については多くの学校は見学個所の精選を痛感している。わずか二泊三日の旅行で学習を主にしている以上、見学地の多いことは、単なる観光旅行に終りやすい。また旅行の形態が一定の場所に長くとどまる基地方式よりも、ぐるぐるとまわってあるく巡回方式が圧倒的に多い。高校生とは発達段階の相違から自由見学を採用しにくいのは当然である。

②現地での行動や学習に班別組織の活用が重視されるのは中学生段階として自主性の育成には格好の場である。

ただ見学の場合の説明がほとんどバスガイドや見学場所の係員にまかせきりは一考を要する。時間的な問題もあるが何か所かは短時間でも引率教師による説明、指導が必要であると思う。

③避難訓練は安全性の確保上大切なことだが、種々の条件から実施しにくいのが通例である。その中に「実施した学校と非常口確認学校」が五五%に及んでいることは、学校が一転有事の際を懸念した配慮がうかがわれる。

（全修協調査研究部長・嶋津佃郎）

学級中心で推進する

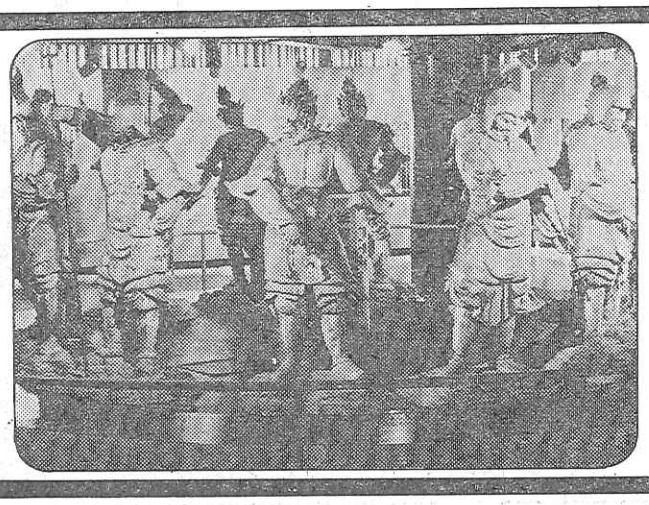
修学旅行　実態調査にみる動向

風紋

六月二十六日のNHKラジオ、わたしたちのことばの時間に　神奈川県のカミヤマ（神山?）という五十九歳の方が「旅とマナー」についての意見発表をされた。大いに参考になったので、これを紙上録音してもう一度考えてみたい▼神山さんは所用で小田原から大阪へ行く時熱海から百人ほどのアメリカ人の観光客が乗りこんだ。その車内には日本人が二、三人だけで、いうならばアメリカの大人たちの修学旅行専用車みたいなものであった▼この車中の旅行団は、実に静かで品位がよく、それでいて陽気でいかにも旅を味わう一人ひとりの気持が、集団の雰囲気の中に自然にとけこんでいたそうだ▼この団体には年壷のエスコートがついていたが、その人のいうには、旅で見かける日本人は酔っぱらうために酒をのむがアメリカ人はちがうとのことだったという▼神山さんは、京都までアメリカ人旅行団とともに、愉快に時を過したが、この人達のおりたあとには、紙屑ひとつなく実に清潔なものであったとのこと、そのマナー、国際センスに感心していた▼これにくらべて、この列車が新大阪についたとき、わが日本人のおりてきたほかの車内はゴミの山であったことは一体どういうことなのだろうかと改めて問いかけていた▼そして神山さんは、日本人のこの次元の低さは、学校の教育がわるいのか、家庭が人間づくりの場としてその機能を失ったのか、何かの歯車がカミ合わないためか、と結んだ▼たしかにこのよく見かける風景の中に民族性の根本にふれる問題を含んでいることは問題いない▼だが、日本人の旅にもいろいろある。全修協の研修旅行は、静かな雰囲気の旅を愛し、学びつつ考えつつ「旅」を味わう人々の集りでここに二十年間にわたり教職員大衆に支えられてきた基盤があったのだと思う▼朝のラジオを耳にしながらこれからはじまる夏の研修旅行の姿を連想した。

（つづく）

大和路のすべてがひと目でわかる
奈良歴史教室
—（近鉄奈良駅ビル4・5階）—



縄文・弥生時代の昔から今日までの移り変りがひと目でわかる展示館です。
古墳・古建築・仏像など模型や写真パネル・スライドで、大和路の歴史と観光の見どころをダイジェストに展示し楽しく解説します。

入場料…200円　こども100円
団体は割引（25人以上）…100円　こども50円
営業時間…10時〜18時（月曜休館）

お問合せ…
近鉄奈良駅ビル4・5階
〒630 奈良市東向中町28
☎（0742）24—3901

自然の中の心の休日
近鉄

論文と作文

応募を締切る

全国から力作ぞくぞくと

財団法人・全国修学旅行研究協会が創立二十周年記念事業の一つとして全国に展開した文部省、都道府県教育長協議会後援による修学旅行の論文と作文募集は六月末日でしめ切った。

応募は論文百三十七点、作文は小学校四百五十八点、中学校七百六十四点、高校百七十一点にたっした。第一次の地方審査を経たのち本部審査および審査委員による厳正な選衡によって入選作を決定発表する運びとなる。論文は実際問題を解明、作文は率直に旅の印象を綴っているものが多い。

研修旅行はじまる

本月下旬からいっせいに

本年度の夏季教職員研修旅行は七月下旬から八月上旬にかけて国内十七コース、海外二コースで実施され、約七千名が約百団にわかれて希望のコースでそれぞれ研修を行う。本年は全修協創立二十周年を迎え、修学旅行の指導改善とならぶ教職員の福利厚生と研究に資するための研修旅行の充実に重点を置いたことが特色といえよう。前号でご紹介したコースの日程につづいて今回は九州コースのみどころをご案内しよう。

九州一周コース

鹿児島市は城山を西北に、桜島を前方に眺める美しい都市。島津氏七十七万八百石の旧城下町で、明治まで薩摩国の首都だった。磯庭園は万治年間に島津光久が造った庭で、錦江湾をへだてて眺める桜島がすばらしい。園内には日本最初のガス灯による石灯籠や、琉球王が献上した小亭もある。

薩摩半島の南端にそびえる開聞岳（かいもんたけ）は薩摩富士といわれるほど美しい。むかし、枚聞（ひらきき）の山神を祭る山として開聞（ひらきき）岳とよんでいた。

長崎鼻は薩摩半島の南端に突き出た長さ約二キロの岬で、ソテツ自生の北限地である。海上に浮ぶ島影の景観がよい。

鹿児島湾のほぼ中央、大隅半島につながれた桜島はホマーテ型の火山。たびたび大爆発があったが大正三年（一九一四）の噴火で世界的に有名になった。

鵜戸神宮はむかし寺院もある神仏混こうであったが、明治七年（一八七四）神宮と改められた。

阿蘇山は瀬戸内海と有明海を結ぶ低地帯のほぼ中央に噴出した火山。壮大なカルデラ（陥没火口）とその岩壁、いまもはげしい噴煙を巻きあげている景観は筆舌につくしがたい。火口丘群は阿蘇五岳といい根子（ねこ）、高（たか）中（なか）、烏帽子（えぼし）、杵島（きじま）の各岳がつらなっている。

雲仙の温泉町は矢岳と絹笠山のあいだの標高七二七㍍の高原にあり、付近には地獄といわれる温泉の名所が多い。

異国情緒にみちた長崎。いたるところに見られるキリシタン文化遺跡のほか、原爆にさらされた痛ましい姿も残っている。

地獄めぐりも圧巻

別府の地獄めぐりもこのコースの大きな魅力だ。地中からわきだすさまざまな温泉や熱泥がすさまじい。とくに約三十分ごとに噴き出す竜巻地獄は一見の価値があろう。

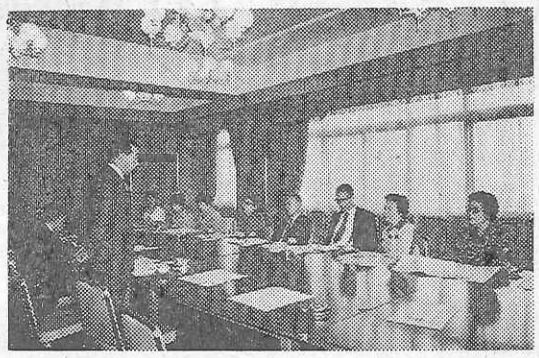
境内の玉椿は心身に不浄のあるものは渡れないとされ、参拝するにはここから履物を脱いでいく習慣がある。付近一帯は亜熱帯植物が茂り、とくにシダ類の群落が有名である。

特別史跡の臼杵（うすき）石仏は豊後における磨崖仏の圧巻。堂ガ迫、ほき、山王山、古園などの石仏群にわかれていて、いずれも平安時代の作といわれる。規模の大きさと優秀な手法はわが国の石造美術の代表。

昨年度研修旅行写真コンクール応募作品・木曽立山飛騨コース「高山の店」浅田茂雄氏（山口）

研修旅行は楽しい

全修協東京支部主催の懇談会



（財）全修協東京都支部（青山良道支部長）では六月六日、千代田区の私学会館に研修旅行の既参加者のなかから代表を招いて懇談会を開いた。

青山支部長は「ここにお集りのかたは全修協研修旅行の、いわばファンといってよいだろう。きょうは忌憚のないお話をうかがって今後計画の参考にしたい」と挨拶した。

「この研修旅行はとてもすばらしいの一言に尽きる」「一度参加すると病みつきになるのがふしぎだ」「教職員という気心のしれた人たちとの旅は楽しい」と出席者は二時間にわたって話し合った。

（写真は懇談会で挨拶する全修協東京都支部長青山良道氏）

暑中お見舞

財団法人　全国修学旅行研究協会

本部事務局
事務局長　小室三夫朗
同副局長　前田寛
中央研修部長
同係長　竹内雅量
調査研究部長　嶋津佃郎
広報部長　早川泰雄
経理部長　金谷幸子
参与　森本良雄
〃　岩崎武夫

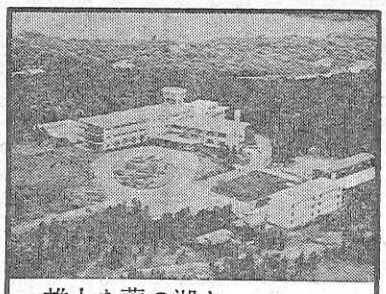
大阪事務所
所長　小西惣二郎
所員　坂井美恵子

名古屋分室
分室長　鬼頭藤松

暑中お見舞

財団法人　全国修学旅行研究協会

理事長　山本種一
常務理事　白滝末紀
常務理事（常勤）　永井熙
〃　村山助雄
理事　高田治郎
〃　完戸一郎
〃　青山良道
〃　成瀬幡治
〃　魚谷時太郎
監事　芦田重左衛門
〃　田尻一雄



雄大な芦の湖と
美しい湖尻高原

修学旅行専用旅館
箱根高原ホテル
電話　0460（4）8595（代表）

充実した修学旅行

ツーリストをお役立てください

ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として“修学旅行映画”シリーズを製作しております。

●修学旅行映画シリーズ

京都の庭園　富士箱根　日光　大和の国なか
大和の塔　火とみどりの国　瀬戸内海
みちのく　大和の道　大和の石　京都の川

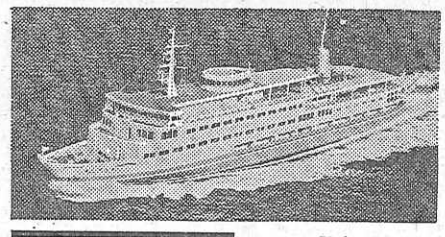
（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25～40分です）

電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」

近畿日本ツーリスト

KANSAI LINE

思い出の修学旅行
印象的な、瀬戸内海の船旅



●阪　神―別府航路（毎日3便）
●阪　神―小豆島・高松航路（毎日2便）
●東神戸―日向（宮崎）フェリー（隔日1便）

関西汽船

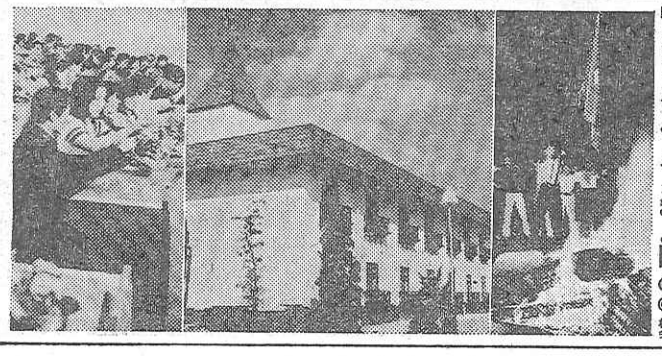
■お問合せは　大阪市港区弁天6－7－15　☎（06）574－9161
東京都中央区八重洲1－9－9　☎（03）274－4271
ほか関西汽船・関汽交通社各営業所・旅行あっ旋案内所

チロル風のホテルは仲良し8人が一緒です。

集団生活の安全管理と宿泊の生徒さんの自主管理の両面から入念に設計された《スズカビレッジ》

●全館冷暖房完備
●防火優秀ホテルとして昭47.7消防庁長官賞受賞

2人で1台実物のエンジンを分解・組立てる
250名収容のテクニカルホールの生きた科学教育。
空へ、水へ、緑の中へ…自分でハンドルを握る〝ゆうえんち〟。
国際レーシングコースを走るレーサー気分も……
そして陽の落ちた広場でファイアーストームを囲んで
校歌を歌うひととき――
チロル風ビレッジの一夜、翌朝伊勢湾から昇る朝日も
忘れがたいもの、どれを取っても
学生生活を刻んだキラリと光るひとコマです。



昨年一年間で11万人もの学生さんが
この思い出深い修学旅行を体験しています
「人と科学と自然の接点」
今年の修学旅行こそスズカを加えた
《新近畿ルート》をご検討ください。
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離
未来と過去を結ぶ理想の修学旅行コースです。

鈴鹿国定公園 国体用道指定地
スズカランド
鈴鹿サーキット
三重県鈴鹿市稲生町
電話＝0593《78》1111

株式会社ホンダランド
本社：東京都中央区八重洲5-5 ☎03《274》5821
大阪営業所：大阪市北区芝田町57-5 ☎06《372》1526